

中学校地理教育における日中教科書比較研究（1）： 「アジア」に関する学習内容を事例にして

メタデータ	言語: ja 出版者: 武蔵野大学教育学研究所 公開日: 2024-01-12 キーワード (Ja): 中学校, 地理教育, アジア, 教科書分析, 日中比較 キーワード (En): 作成者: 孫, 穎群, 佐藤, 克士 メールアドレス: 所属:
URL	https://mu.repo.nii.ac.jp/records/2000144

中学校地理教育における日中教科書比較研究（1）

－ 「アジア」に関する学習内容を事例にして－

A Comparative Study of Japanese and Chinese Textbooks in Junior High School Geography Education I : Using the Content of Learning about “Asia” as an Example

孫 穎 群*

SUN Yingqun

佐 藤 克 士†

SATO Katsushi

キーワード：中学校，地理教育，アジア，教科書分析，日中比較

I. 問題の所在

本研究の目的は、日本と中華人民共和国（以下、中国）における中学校地理教科書の比較を通して、異同を明らかにすることである。本研究に関わる先行研究として蘇・山中・上月（2007）、郭（2015）、季・池（2015）、南（2019）、傅（2019）、赫連・桑原（2021）等の研究が挙げられる。傅（2019）の研究では、日本の2018年版高等学校学習指導要領（地理歴史編）と中国の2017年版普通高校地理課程標準1）を比較・検討することを通して、両国の高等学校段階における地理教育カリキュラムの異同を明らかにしている。他方、蘇・山中・上月（2007）、郭（2015）、季・池（2015）、南（2019）、赫連・桑原（2021）、の研究では、中国の学校教育で使用されている教科書を分析対象として、その特質を明らかにしている。具体的に蘇・山中・上月（2007）は、中学校地理教育において環境に関する内容がどのように変化してきたかを、郭（2015）は、高等学校地理教科書を事例にESDの視点がどの程度組み込まれているのかを、季・池（2015）は、高等学校地理教科書を事例に「観光」に関する学習内容がどのように取り上げられているのかを、南（2019）は、中学校地理教科書を事例に「日本」に関する記述が量的・質的にどのように変化してきたかを、赫連・桑原（2021）は、中学校地理及び歴史教科書を事例に多文化共生の視点がどの程度組み込まれているのかを、それぞれ明らかにしている。このように先行研究では、主として中国の中学校・高等学校段階で使用されている地理・歴史教科書を事例にその特質を明らかにする研究が比較的盛んに行われてきた。他方で、中国の教科書と日本のそれを比較し、その異同を明らかにする研究は、管見の限り蘇・山中・上月（2007）にしか確認することができない。具体的に蘇・山中・上月（2007）の研究では、日本と中国の中学校地理教育における環境に関す

* 武蔵野大学教育学研究科 † 武蔵野大学教育学部

る内容の変遷を教育課程（カリキュラム）と教科書の2つの対象を比較することを通して両国の異同を明らかにしている。これに対して、本研究では、現在、日本と中国で使用されている教育課程（カリキュラム）及び教科書、そして特定の単元を比較対象としてその異同を明らかにする点に新規性を見出すことができる。具体的に、本研究では、世界地誌に関する学習内容の異同について「アジア」を事例に日本と中国の中学校地理教育において、「アジア」がどのように取り上げられ、どのように学習されているのかについて、明らかにすることを目的とする。研究対象として「アジア」を取り上げる理由は、日本も中国もアジア地域に属する国であること、故に自国をどのように取り上げ、どう描くかに両国の違いが明確に表れるのではないかと判断したからである。

以下、本研究を次の手順で進めることとする。

- ① 日本の地理教育における「アジア」に関する学習内容を2017年版中学校学習指導要領及び準拠版教科書をもとに整理する。
- ② 中国の地理教育における「アジア」に関する学習内容を2011年版義務教育中学「地理」課程標準及び準拠版教科書をもとに整理する。
- ③ 日本と中国の地理教育における「アジア」に関する学習内容の異同について述べる。

Ⅱ. 日本の中学校社会科（地理的分野）における「アジア」に関する学習内容

日本の地理教育における「アジア」に関する学習はどのように展開されているのだろうか。ここでは、2017年版中学校学習指導要領と学習指導要領に準拠した教科書（以下、準拠版教科書）を事例にその特質を明らかにしていく。

1. 2017年版中学校学習指導要領における「アジア」に関する学習内容の位置づけ

2017年版中学校学習指導要領では、地理的分野の内容は「A 世界と日本の地域構成」、「B 世界の様々な地域」、「C 日本の様々な地域の」の三つ大項目で構成されている。その中で、「アジア」に関する内容は、「B 世界の様々な地域」に位置づけられている。この大項目は、「A 世界と日本の地域構成」の学習成果を踏まえて、世界の多様な地域に住む人々の生活を中心に、世界の諸地域の多様性や地域的特色を理解することを通して、世界の地理的認識を養うことをねらいとしている。このねらいを達成するために、この大項目は、「(1) 世界各地の人々の生活と環境」、「(2) 世界の諸地域」の二つの中項目から構成されており、「アジア」に関する内容は、「(2) 世界の諸地域」に位置づけられている。

2017年版中学校学習指導要領では、中項目「(2) 世界の諸地域」に関して、①アジア州、②ヨーロッパ州、③アフリカ州、④北アメリカ州、⑤南アメリカ州、⑥オセアニア州の各州を取り上げ、空間的相互依存作用や地域などに着目して主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して、下記のような知識及び技能、思考力、判断力、表現力等を身に付けることが示されている（文部科学省、2017, pp.43-46）。

知識及び技能

(ア) 世界各地で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解すること。

(イ) ①から⑥までの世界の各州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観し理解すること。

思考力、判断力、表現力等

(ア) ①から⑥までの世界の各州において、地域で見られる地域的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現すること。

また、上記の知識及び技能、思考力、判断力、表現力等を身に付けさせるためのアジア州の主題及び学習の展開として下記のような例が示されている（文部科学省，2017, pp.49-50）。

① アジア州：＜主題例＞人口の増加、居住環境の変化に関わる課題など

アジア州を大観する学習を踏まえて、例えば、中華人民共和国（以下、中国という。）を対象に「中国では人口問題に対してどのような対策がとられてきたのか」、「経済発展した中国で、なぜ居住環境の問題が起きているのか」などといった問いを立て、前者の場合、中国における人口動態、国内の経済格差、地域間の人口移動などを地域の人々の生活と関連付けて多面的・多角的に考察して、人口に関わる一般的課題と中国における地域特有の課題とを捉える。

2. 準拠版教科書における「アジア」に関する学習内容の特質

2017年版中学校学習指導要領に示されている中項目「(2)世界の諸地域」や展開例を踏まえ、準拠版教科書では「アジア」に関する内容がどのように構成されているのだろうか。ここでは、日本で比較的シェアの高い東京書籍の地理教科書『新しい社会 地理』を事例にその特質を分析していく。第1表は、『新しい社会 地理』の学習内容（目次）を整理したものである。

第1表 東京書籍発行『新しい社会 地理』の内容構成

※「アジア」に関する学習内容は網掛け

<p>第1編 世界と日本の姿</p> <p>第1章 世界の姿</p> <p>第2章 日本の姿</p> <p>第2編 世界のさまざまな地域</p> <p>第1章 世界各地の人々の生活と環境</p> <p>第2章 世界の諸地域</p> <p>1節 アジア州</p> <p>2節 ヨーロッパ州</p> <p>3節 アフリカ州</p> <p>4節 北アメリカ州</p> <p>5節 南アメリカ州</p> <p>6節 オセアニア州</p>	<p>第3編 日本のさまざまな地域</p> <p>第1章 地域調査の手法</p> <p>第2章 日本の地域的特色と地域区分</p> <p>第3章 日本の諸地域</p> <p>1節 九州地方</p> <p>2節 中国・四国地方</p> <p>3節 近畿地方</p> <p>4節 中部地方</p> <p>5節 関東地方</p> <p>6節 東北地方</p> <p>7節 北海道地方</p> <p>第4章 地域の在り方</p>
--	--

(矢ヶ崎ほか (2021) をもとに筆者作成)

第1表の通り、『新しい社会 地理』では、「アジア」に関する内容は、「第2編 世界のさまざまな地域」「第2章 世界の諸地域」「1節 アジア州」に位置づけられている。それでは、具体的に「1節 アジア州」において、「アジア」に関する学習内容は、どのように構成されているのだろうか。

「1節 アジア州」の内容を整理したものが第2表である。第2表は、左から「主な学習内容」、「主な学習活動（○学習課題、●探究課題）」、「主な資料」を示している。

第2表 第2章1節「アジア州—急速な都市の成長と変化—」の内容構成

・主な学習内容	主な学習活動 (○学習課題, ●探究課題)	■主な資料
1. アジア州をながめて ・多様な自然環境 ・多彩な文化 ・急速な経済成長と都市問題	○アジアの自然環境や文化、人口には、どのような特色が見られるのでしょうか。 ----- ●アジア州は、なぜ急速に経済が成長してきたのでしょうか（探究課題）。	■アジアの降水量【図】 ■アジアの人口密度【図】 ■アジア州各地の雨温図【図】 ■アジアの主な国の一人当たりの自動車保有台数の移り変わり【図】
2. アジア NIES の成長 ・アジア NIES の産業の変化 ・輸出とともに成長した韓国 ・ハイテク産業が発展する台湾 ・過密が進むアジア NIES の都市	○経済の発展によって、東アジアではどのような変化が起きているのでしょうか。	■高層住宅が立ち並ぶ香港のニュータウン【写真】 ■アジアの国・地域から日本への輸出品【図】 ■韓国の輸出品の変化【図】 ■アジア NIES の主な都市にある高層ビルの数【図】
3. 巨大な人口が支える中国 ・巨大な人口がもたらす発展 ・進む都市化と環境問題 ・格差の拡大と内陸部の開発	○中国の経済はどのように発展し、また、どのような課題が見られるのでしょうか。	■帰省する人々で混雑する上海の駅【写真】 ■主な電子機器の生産に占める中国の割合【図】 ■中国の都市人口と農村人口の移り変わり【図】 ■首都北京の大気汚染【写真】 ■高地を走る青蔵鉄道【写真】
4. 都市化が進む東南アジア ・農村の暮らしの変化 ・外国企業の進出と工業化 ・急速な都市化と課題	○東南アジアの経済はどのように発展し、また、どのような課題が見られるのでしょうか。	■東南アジアにある日本企業の工場【写真】 ■東南アジアの主な国の輸出品の変化【図】 ■油ヤシの収穫【写真】 ■ベトナムの首都ハイノの交通渋滞【写真】

<p>5. 急速に成長する南アジア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南アジアの人々の生活 ・人口増加が続く南アジア ・変化する産業と都市の生活 	<p>○南アジアのインドでは、経済がどのように発展し、また、どのような課題が見られるのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ベンガルールのビジネスパーク【写真】 ■中国とインドの人口の移り変わり【図】 ■インドの自動車生産台数の移り変わり【図】 ■デリーのショッピングモール【写真】
<p>6. 資源が豊富な西アジア・中央アジア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イスラム教徒が多い西アジア ・資源が豊富な西アジア ・注目される中央アジア ・安全で先進的な都市への課題 	<p>○西アジアや中央アジアの経済はどのように発展し、また、どのような課題が見られるのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■人工島の建設が進むアラブ首長国連邦のドバイ【写真】 ■イスラム教の聖地メッカに巡礼する人々【写真】 ■西アジア・中央アジアの主な国と日本の一人当たりの国内総生産（GDP）の変化【図】 ■西アジア・中央アジアの鉱山資源【図】 ■西アジア・中央アジアの国々の主な輸出品【図】 ■ドバイの人口の移り変わりと外国人労働者の割合【図】
<p>【もっと地理】 イスラム教と人々の暮らし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イスラム教徒の生活 ・地域によって異なる決まり ・求められるイスラム教への正しい理解 	<p>○アジア州で多くの人が信仰するイスラム教の、人々の生活との関わりを考えましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■断食期間中の飲食店【写真】 ■イスラム教徒の女性【写真】 ■世界のイスラム教徒の人口と割合【図】
<p>【アジア州をふり返ろう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アジア州の自然地名の確認 <p>【アジア州の学習をまとめよう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アジア州の地域的特色の整理 <p>【探究課題を解決しよう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アジア州の経済が急速に成長した理由 	<p>○それぞれの地域で経済が成長した理由と、経済の成長によって起こっている課題を表に整理しましょう。</p> <hr/> <p>●アジア州は、なぜ急速に経済が成長してきたのでしょうか（探究課題）。</p>	

（樊傑主編（2012b）, pp.1-42をもとに筆者作成）

第2表の通り、第2章1節「アジア州—急速な都市の成長と変化—」は、6つの項目と特設ページ（全18頁）で構成されている。「1. アジア州をながめて（pp.58-59）」では、アジア州の特色を自然環境や文化、人口といった視点から捉えさせることを通して、アジアの自然環境や文化的な多様性と急速な経済成長による都市問題を理解させることが企図されている。また、これらの

事実を踏まえ、本単元を貫く探究課題「アジア州は、なぜ急速に経済が成長してきたのでしょうか」が設定されている。「2. アジア NIES の成長 (pp.60-61)」では、「高層住宅が立ち並ぶ香港のニュータウン【写真】」の読み取りを通して、東アジア諸国の経済発展の事実を捉えさせることが企図されている。また、経済成長の変化を捉えさせるために、「韓国の輸出品の変化【図】」や「アジア NIES の主な都市にある高層ビルの数【図】」等の資料が掲載されている。「3. 巨大な人口が支える中国 (pp.62-63)」では、中国の工業が発展し、「世界の工場」と呼ばれるようになった理由や中国の経済成長によって起こった課題とその対策について理解することがめざされている。上記の内容を理解させるために、「主な電子機器の生産に占める中国の割合【図】」や「中国の都市人口と農村人口の移り変わり【図】」、「首都北京の大気汚染【写真】」等の資料を読解したり、説明したりする学習が企図されている。「4. 都市化が進む東南アジア (pp.64-65)」では、マレーシアやタイ、インドネシアを事例に過去(1980年)と現在(2017年)の輸出品の変化や農村の暮らしの変化を捉えさせることがめざされている。また、外国企業の進出による工業化とその影響について「東南アジアにある日本企業の工場【写真】」や「ベトナムの首都ハノイの交通渋滞【写真】」の読み取りを通して捉えさせることが企図されている。「5. 急速に成長する南アジア (pp.66-67)」では、インドを事例に ICT 関連の企業が多く立地している「ベンガルールのビジネスパーク【写真】」や「インドの ICT 関連輸出品の移り変わり」と輸出先【図】、「インドの自動車生産台数の移り変わり【図】」等の読み取りを通して、変化する産業と実態と経済成長による正負の影響を理解させることがめざされている。「6. 資源が豊富な西アジア・中央アジア (pp.68-99)」では、「人工島の建設が進むアラブ首長国連邦のドバイ【写真】」や「西アジア・中央アジアの鉱山資源【図】」、「西アジア・中央アジアの国々の主な輸出品【図】」等の資料の読み取りを通して、ドバイが発展した理由や西アジア・中央アジアの経済発展の共通点をアジアの他の地域と比較して説明することがめざされている。特設ページ (pp.70-73) では、アジア州で多くの人が信仰するイスラム教の人々の生活との関わりを考えさせたり、単元冒頭で設定されていた探究課題(アジア州が急速に経済成長した理由)について本単元で獲得した知識を活用して答えを導き出したりする構成となっている。本単元では、「アジア」について、経済発展と、人口や住環境等の都市問題に着目して地域的特色を捉えさせることが企図されている点に特質を見出すことができる。

Ⅲ 中国の中学校地理教育における「アジア」に関する学習内容

1. 2011年版義務教育中学「地理」課程標準における「アジア」に関する学習内容の位置づけ

中国の地理教育において「アジア」に関する学習はどのように展開されているのだろうか。ここでは、2011年版義務教育中学「地理」課程標準(以下、中学「地理」課程標準)と中学「地理」課程標準に準拠した教科書(以下、準拠版教科書)を事例にその特質を明らかにしていく。

ところで中国の学校教育において「地理」は、中学校段階から学習する教科として位置づけられている。具体的に小学校段階では、教科「品德と社会(生活)」において社会に関わる内容を日本の社会科と同様、同心円の拡大論(自分→家族→学校→地域社会→国家→世界)に基づき、自分(学習者)を中心に徐々に空間を拡大させて認識を深めていく構成となっている。したがっ

て、日本の小学校社会科同様、世界に関する地理的内容は、中学校に進学してはじめて本格的に学習する点にその特質を見出すことができる。

中学「地理」課程標準（中華人民共和国教育部，2011）は、「地球と地図」、「世界地理」、「中国地理」、「郷土地理」の4領域で構成されている。その中で、「アジア」に関する内容は、「世界地理」領域に位置づけられている。それを整理したのが第3表である。

第3表 中学「地理」課程標準における「世界地理」領域の学習目標・学習内容

項目	学習目標・学習内容
(二) 海洋と陸地	<p>1. 海陸分布</p> <p>①地図と資料を用いて、地球の表面に海と陸が占める割合を述べたり、海陸分布の特徴について説明したりする。</p> <p>②世界図を用いて、七大陸、四大洋の分布を明らかにする。</p>
	<p>2. 海陸変遷</p> <p>①地球の表面は、海と陸が絶えず動き、変化していることを知る。</p> <p>②プレートテクトニクスの基本的な考え方を理解し、世界的に有名な山系や火山、地震の分布と地殻プレートの運動との関係について説明する。</p>
(二) 気候	<p>1. 天気</p> <p>①天気と気候の概念を区別し、正しく用いることができる。</p> <p>②よく使われる天気記号を識別し、簡単な天気図を見て説明する。</p> <p>③人間活動が大気に与える影響について理解し、実例をもとに説明する。</p>
	<p>2. 気温と降水の分布</p> <p>①世界の年平均と1月、7月の平均気温分布図を読み取り、世界の気温分布の特徴を要約する。</p> <p>②世界の年間降水量分布図を読み、世界の降水分布の特徴を要約する。</p> <p>③気温と降水量の資料を用いて、気温のグラフと降水量の棒グラフを作成し、気温と降水量の時間変化の特徴を記述する。</p>
	<p>3. 主な気候の型</p> <p>①世界の気候類型分布図を用いて主要な気候類型の分布を記述する。</p> <p>②緯度位置、海陸分布、地形などが気候に与える影響を例示する。</p> <p>③気候が生産や生活に与える影響を例示する。</p>
(三) 移民	<p>1. 人口と人種</p> <p>①地図と他の資料を用いて、世界の人口増加と分布の特徴を要約する。</p> <p>②人口が多すぎることが環境や社会、経済に与える影響を例示する。</p> <p>③世界三大人種の特徴を述べ、地図上で三大人種の主な分布地域を示す。</p>
	<p>2. 言語と宗教</p> <p>①地図を用いて、中国語、英語、フランス語、ロシア語、スペイン語、アラビア語の主要な分布地域を説明する。</p> <p>②世界三大宗教とその主な分布地域を説明する。</p>

	<p>3. 集落</p> <p>①写真を使って都市と田舎の風景の違いを記述する。</p> <p>②集落と自然環境の関係を記述する。</p> <p>③世界文化遺産を保護する意味を理解する。</p>
(四) 地域 展 の 差	<p>①実例を通じて、地域によって発展レベルに差があることを理解する。</p> <p>②途上国と先進国の分布の特徴を地図で整理する。</p> <p>③実例を用いて国際経済協力の強化の重要性を記述する。</p>
(五) 地域 の 認 識	<p>1. 五大州の認識</p> <p>①地図などの資料を用いて、ある大陸の緯度位置と海陸の位置を簡単に説明する。</p> <p>②地図とほかの資料を用いて、ある大陸の地形、気候、水系の特徴を要約し、その相互関係を簡単に分析する。</p> <p>2. 地区の認識</p> <p>①地図上である地域の位置、範囲、主要な国とその首都を探し出し、図を読んでその地域の地理的特性を記述する。</p> <p>②地形図や地形断面図を用いて、ある地域の地勢や地形の特徴を要約し、地形とその地域の人間活動との関係を記述する。</p> <p>③グラフを用いて、ある地域の気候の特徴と、その地域の農業生産や生活に及ぼす影響を記述する。</p> <p>④地形図を用いて、ある地域の河川が都市の分布に与える影響を記述する。</p> <p>⑤地図やその他の資料を用いて、ある地域がその地域や世界の経済発展に大きな影響を及ぼす天然資源の一つやいくつかを示し、その分布、生産、輸出などの状況を記述する。</p> <p>⑥ある地域の観光事業の強みについて例を挙げながら説明する。</p> <p>⑦資料を用いてある地域の地理的特色が富んだ文化慣習を説明する。</p> <p>⑧南、北極地域の自然環境の特殊性を述べ、極地の科学的考察と極地の環境を保護する重要性を理解する。</p> <p>3. 国家の認識</p> <p>①地図上に国の地理的位置、領土構成、首都を示す。</p> <p>②地図とほかの資料に基づいてその国の自然環境の基本的特徴を要約する。</p> <p>③地図やその他の資料を使用し、特定の国の自然条件の特性に関連し、簡単にその国の経済発展の状況を分析する。</p> <p>④ある国の経済発展に対するハイテク産業の役割について実例をもとに記述する。</p> <p>⑤ある国の天然資源開発や環境保護に関する経験や教訓の例を説明する。</p> <p>⑥地図に基づいてある国の交通・輸送ルートの特徴を要約する。</p> <p>⑦ある国の人種や人口（あるいは民族、宗教、言語）等の人文地理的な要素の特徴を地図やその他の資料から明らかにする。</p> <p>⑧例を用いてある国の自然環境が民俗に与える影響を記述する。</p> <p>⑨ある国と他の国との経済的、貿易的、文化的なつながりを記述する。</p>

(中華人民共和国教育部(2011)をもとに筆者作成)

第3表の通り、「世界地理」領域は、「(一) 海洋と陸地」、「(二) 気候」、「(三) 移民」、「(四) 地域発展の差」、「(五) 地域の認識」の5つの項目で構成されている。しかし、学習対象である「ア

ジア」の何を取り上げ、どのように学習させるか等、「アジア」に限定した記述は確認できない。例えば、「1. 五大州の認識」の「地図とほかの資料を用いて、ある大陸の地形、気候、水系の特徴を要約し、その相互関係を簡単に分析する」や「2. 地区の認識」の「地形図や地形断面図を用いて、ある地域の地勢や地形の特徴を要約し、地形とその地域の人間活動との関係を記述する」、 「3. 国家の認識」の「ある国の人種や人口（あるいは民族、宗教、言語）等の人文地理的な要素の特徴を、地図やその他の資料から明らかにする」等の内容が記述されているように、各地域の特色を理解するための学習方法が具体的に明示されている点にその特質が見られる。

2. 準拠版教科書における「アジア」に関する学習内容の特質

現行版の中学「地理」課程標準（「世界地理」領域）に示された学習目標及び学習内容は、準拠版教科書にどのように反映されているのだろうか。ここでは、中華人民共和国教育部が管理し、人民教育出版社・教育部が発行する『地理』を分析対象とし、中学校の地理教育において自然災害に関する学習がどのように展開されているのかを明らかにする。分析対象に関して、『地理』を取り上げる理由は、中華人民共和国教育部が指定する唯一の教科書だからである。本稿では、人民教育出版社・教育部が発行する『地理』の最新版（2012年版）の教科書を分析対象とする。

3. 人民教育出版社・教育部発行『地理』（第7学年）の内容構成

第4表は、『地理』（第7学年）における学習内容（目次）を整理したものである。

第4表 人民教育出版社・教育部発行『地理』（第7学年）の内容構成

『上册』	『下册』
<p>第一章 地球と地図 第1節 地球と地球儀 第2節 地球の動き 第3節 地図の読み 第4節 地形図の判読 第二章 陸と海 第1節 大陸と大洋 第2節 海陸の変遷 第三章 天気と気候 第1節 変わりやすい天気 第2節 気温の変化と分布 第3節 降水量の変化と分布 第4節 世界の気候 第四章 住民と集落 第1節 人口と人種 第2節 世界の言語と宗教 第3節 人類の居住地—集落 第五章 開発と協力</p>	<p>※「アジア」に関する内容は網掛け</p> <p>第六章 私たちが生活する大陸アジア 第1節 位置と範囲 第2節 自然環境 第七章 私たちの近隣の地域と国家 第1節 日本 第2節 東南アジア 第3節 インド 第4節 ロシア 第八章 東半球のその他の国と地域 第1節 中東 第2節 西ヨーロッパ 第3節 サハラ以南のアフリカ 第4節 オーストラリア 第九章 西半球の国 第1節 アメリカ 第2節 ブラジル 第十章 極地地域</p>

（樊傑主編（2012a）・（2012b）をもとに筆者作成）

第4表の通り、人民教育出版社・教育部発行の『地理』（第7学年）では、『下冊』に「アジア」に関する単元が設定されていた。具体的には、第六章「私たちが生活する大州－アジア」と第七章「私たちの近隣の地域と国家」に「アジア」に関する学習内容が位置づけられていた。

それでは、具体的に上述した各単元において、「アジア」に関する学習内容は、どのように構成されているのだろうか。それをまとめたものが第5表である。第5表は、左から「主な学習内容」, 「主な学習活動（○学習課題）」, 「■主な資料」を示している。

第5表 第六章「私たちが生活する大州－アジア」と第七章「私たちの近隣の地域と国家」の内容構成

	・主な学習内容	主な学習活動 (○学習課題)	■主な資料
第六章「私たちが生活する大州 アジア」	第1節 位置と範囲 ・世界におけるアジアの位置 ・アジアの範囲 ・アジアの地理的位置区分 ・アジアの異なる地域暮らし 人々の生活	○世界におけるアジアの位置【図】を使って北アメリカの位置を簡単に説明しなさい。 ○北アメリカの範囲と位置【図】を使って北アメリカの緯度と経度を説明しなさい。 ○資料をもとに、北アメリカとアジアの位置と範囲を比較し、表を完成させなさい。	■世界におけるアジアの位置【図】 ■アジアの範囲【図】 ■北アメリカの範囲と位置【図】 ■七大陸面積比較【図】 ■アジアの地理的位置区分【図】 ■アジアの異なる地域住民の生活差【図】
	第2節 自然環境 ・アジアの地形 ・アジアの気候タイプ ・アジアの代表的な景観	○北アメリカの地形の特徴について説明しなさい。 ○ミシシッピ川を事例に、北アメリカの地形が川の流れに与える影響について説明しなさい。 ○北アメリカの気候分布の特徴を説明しなさい。	■アジアの地形【図】 ■アジア大陸の北緯30度緯線に沿った地形断面図【図】 ■死海【写真】 ■北アメリカの地形【図】 ■北アメリカの北緯40度緯線に沿った地形断面図【図】 ■アジアの気候【図】 ■アジアの異なる気候タイプの景観例【図】 ■北アメリカの気候種類【図】
	第1節 日本 ・世界における日本の位置 ・日本の地形 ・日本の主要な工業原料の供給源と主要工業製品 ・日本の民族構成と文化 ・中国と日本の文化交流	○プレート構造説を用いて、日本で多くの火山噴火や地震が発生する原因を説明しなさい。 ○地震に対して、日本はどのような対応措置をとっていますか。 ○わが国も地震の多い国ですが、日本に学ぶべき点は何ですか。	■世界における日本の位置【図】 ■日本の地形【図】 ■富士山【写真】 ■温泉【写真】 ■火山噴火【写真】 ■強い地震による津波【写真】 ■日本周辺の火山と地震帯【図】 ■日本の主要な工業原料の供給源【図】

第七章「私たちの近隣の地域と国家」		<p>○日本の工業地帯にはどのような特徴がありますか。</p> <p>○日本の工業が太平洋沿岸と瀬戸内海沿岸に集中的に分布している理由を説明しなさい。</p> <p>○もし、あなたが他に（建築物以外）中日文化の融合に関して知っていれば発表して下さい。</p>	<p>■日本の主要な工業製品の輸出先【図】</p> <p>■2010年の日本の主要投資国・地域【図】</p> <p>■日本の太平洋沿岸工業ベルト【図】</p> <p>■和服と「洋服」の並存【写真】</p> <p>■和屋と「洋」房の並存【写真】</p> <p>■日本京都の古い建築【写真】</p>
	<p>第2節 東南アジア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界における東南アジアの位置 ・東南アジアの地形 ・東南アジア諸国の主要作物 ・東南アジアの農業生産と熱帯雨林保護 ・東南アジアの観光地 	<p>○わが国が石油を輸入する際のマラッカ海峡の重要性について説明しなさい。</p> <p>○オイルブrawn栽培の発展とオランウータンの生存環境の保護との間にはどのような矛盾がありますか。</p> <p>○世界のほとんどの都市は、川沿いに分布しているその理由（利点）とそれがもたらす弊害について説明しなさい。</p> <p>○近年、多くの中国人は海外旅行先として東南アジアを選んでいますが、今後も東南アジアが中国人の旅行先となるための優位条件について議論しなさい。</p>	<p>■世界における東南アジアの位置【図】</p> <p>■東南アジアの地形【図】</p> <p>■マラッカを通る航路【図】</p> <p>■東南アジアの棚田【写真】</p> <p>■東南アジアの住民の食生活【写真】</p> <p>■東南アジア諸国の主要作物の分布【図】</p> <p>■東南アジアの熱帯雨林で生息するオランウータン【写真】</p> <p>■伐採された広大な熱帯雨林【写真】</p> <p>■東南アジアの観光地【写真】</p>
	<p>第3節 インド</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界におけるインドの位置 ・インドの地形 ・インドの人口推移と対策 ・インドの気候と食糧生産 ・インドにおけるソフトウェアアウトソーシング産業 	<p>○インドにおいて人口が多いことの利点を述べなさい。</p> <p>○小麦と水稲の生産地域の特徴について資料をもとに説明しなさい。</p> <p>○資料をもとに、インドにおけるソフトウェアアウトソーシング産業の空間分布の特徴について説明しなさい。</p> <p>○1980年代にソフトウェアアウトソーシング産業がバンガロール地域に発祥した理由について説明しなさい。</p>	<p>■世界におけるインドの位置【図】</p> <p>■インドの地形【図】</p> <p>■1993-2011年のインドの人口推移【図】</p> <p>■インドの産児制限ポスター【写真】</p> <p>■ムンバイの年平均月別気温と降水量【図】</p> <p>■インドの干ばつ【写真】</p> <p>■インドの稲や小麦の分布【図】</p> <p>■インドのアウトソーシング産業センター形成年代と分布【図】</p>
	<p>第4節 ロシア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界におけるロシアの位置 ・ロシアの地形 	<p>○ロシアの自然環境と地形の特徴についてまとめなさい。</p> <p>○ロシアが工業を発展させる</p>	<p>■世界におけるロシアの位置【図】</p> <p>■ロシアの地形【図】</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・ロシアの気候 ・ロシアの鉱物資源と産業 ・ロシアの交通（パイプライン，鉄道） 	<p>ことが理由について自然環境と結び付けて説明しなさい。</p> <p>○中国がロシアに対して輸出している主な商品は何か。またなぜ、それらの商品を輸出しているのか理由を説明しなさい。</p> <p>○世界最長であるシベリア鉄道がロシア南部の山間部に沿って建設された理由を説明しなさい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■モスクワとヤクーツクの年平均月別気温と降水量【図】 ■ロシアの鉱物資源と産業の分布【図】 ■ロシアの鉄道やパイプライン都市の分布【図】 ■シベリア鉄道【写真】 ■ウラジオストク【写真】
---	---	---

（樊傑主編（2012b）をもとに筆者作成）

第5表の通り，第六章「私たちが生活する大州－アジア」は全2節（全12頁），第七章「私たちの近隣の地域と国家」は全4節（全30頁）で構成されている。第六章「私たちが生活する大州－アジア」の第1節「位置と範囲（pp.2-5）」では，地球儀や世界地図等の資料をもとに，世界におけるアジアの位置と範囲について理解させることが企図されている。具体的に，アジアという地域が世界の陸地面積の約1/3を占め，世界で最も面積が大きい大州であることや，地理的には東アジア，東南アジア，南アジア，西アジア，中央アジア，北アジアの6つの地域に分けられることが本文にて記述されている。さらに，「アジアの異なる地域住民の生活差【図】」の読解を通して，アジアの各地域で生活する人々の違いについて理解させる構成となっている。他方，第2節「自然環境（pp.6-12）」では，主に地形と気候について学習する構成になっている。気候に関しては，アジアは熱帯，温帯，寒帯にまたがり東・北・南の三方位が大洋に囲まれ，西はヨーロッパ大陸と接しているため，全体として複雑で，地域差が大きいことを色分けされた地図の読解を通して理解することがめざされている。本章では，アジアの位置や範囲，地形や気候の特色を北アメリカとの比較（主な学習活動）を通して理解させることが企図されている点に特質を見出すことができる。

第七章「私たちの近隣の地域と国家」では，アジア州に属する「日本」，「東南アジア」，「インド」，「ロシア」といった地域について，気候・地形・産業・人口・文化（歴史を含む）等の視点から各地域の特色を学習する構成となっている。具体的に第1節「日本（pp.14-21）」では，地形的特色（地震や火山が多い），産業的特色（グローバル化する工業），文化的特色（服飾，料理・建造物）について理解させる構成になっている。また第2節「東南アジア（pp.22-29）」では，タイ，ベトナム，ミャンマー，フィリピン，マレーシア，インドネシア等の国を事例に，気候・地形・産業・人口・有名観光地といった視点からその特色が描かれている。教科書では，「学習活動」としてそれらの事実を表に整理させたり，自分の考えを整理し，相手に説明（議論）したりする指示が明示されている。学習者は，このような学習活動を通して「東南アジア」の地域的特色を理解する構成になっている。第3節「インド（pp.30-36）」及び第4節「ロシア（pp.37-42）」では，基本的には，上述した第1節「日本」や第2節「東南アジア」とほぼ同様の展開となっており，具体的な「学習活動」を通じて，各地域の特色を理解させる構成となっている。本章では，アジ

ア地域を4つの区分に分け、気候・地形・産業・人口・文化（歴史を含む）等の視点から各地域の学習することを通して、アジアに属する各地域の特色を理解させることが企図されている点に特質を見出すことができる。

IV. 日本と中国の中学校地理教育における「アジア」に関する学習内容の異同

日本と中国の中学校地理教育において「アジア」に関する学習内容の共通点や相違点は何か。これまで分析してきた内容をもとに整理する。

まず教育課程（カリキュラム）に関して、日本の学習指導要領では、「A 世界と日本の地域構成」、 「B 世界の様々な地域」、 「C 日本の様々な地域の」のうち、「アジア」に関する内容は、「B 世界の様々な地域」に位置づけられている。一方、中国の課程標準では、「地球と地図」、「世界地理」、「中国地理」、「郷土地理」の4領域のうち、「世界地理」領域に位置づけられている。両国とも世界を六州と捉えるか五州と捉えるかの違いこそあれ、世界の様々な地域の地理的特色を概観するという文脈で「アジア」が位置づけられている点に共通点を見出すことができる。他方、「アジア」を学習することを通して、どのような認識や能力を育成（形成）するかという目標に関しては違いが見られる。例えば、日本の学習指導要領では、空間的相互依存作用や地域などに着目して主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して、顕在化している地球的課題や地域的特色に関わる認識形成、また地域的課題の要因や影響を、他地域との結び付き等に着目して多面的・多角的に考察することができる能力の育成が示されている。また、これらの認識・能力を育成（形成）するために、具体的な主題及び学習展開例が示されている。一方、中国の課程標準には、日本の学習指導要領のように「アジア」の何を取り上げ、どのように学習させるか等、「アジア」に限定した記述は示されていない。示されているのは、「地図とほかの資料を用いて、ある大陸の地形、気候、水系の特徴を要約し、その相互関係を簡単に分析する」等のように地域の特色を理解するための学習方法だけであり、「アジア」の学習を通して、どのような認識や能力を育成（形成）するかという目標記述は確認できない。

次に準拠版教科書に関して、日本の『新しい社会 地理』では、単元名（「アジア州—急速な都市の成長と変化—」）にも示されているように、単元全体が「経済発展した現実とその影響」という主題に基づき、アジア州の地域的特色や地球的課題について理解させる構成となっていた。上記の内容を理解させるために、本単元では探究課題として「アジア州は、なぜ急速に経済が成長してきたのでしょうか」という問いが設定されていた。この探究課題を解き明かすために、アジア地域が5つのユニット（東アジア、中国、東南アジア、南アジア、西アジア・中央アジア）に区分し、各ユニットでは、「経済はどのように発展し、（その結果）どのような課題が見られるか」という視点で地域的特色を理解させる構成となっていた。一方、中国の『地理』では、第4表で示したように「アジア」に関する内容が2つの章（「第六章 私たちが生活する大陸アジア」・「第七章 私たちの近隣の地域と国家」）に跨って学習する構成となっていた。具体的に、第六章ではアジアの位置と範囲、自然環境の特質について、第七章ではアジア地域を4つのユニット（日本、東南アジア、インド、ロシア）に区分し、各ユニットでは、各地域の特質を位置、気候（環境）、地形、産業、人口、文化（歴史を含む）等の視点（項目）から情報を整理し、理解させる構成となっていた。

以上、両国の「アジア」に関する単元構成を踏まえ、共通点として二点指摘することができる。第一に両国ともアジアに属する国にありながら、自国については取り上げられていない点である。第二に、両国とも「アジア」の地域的特色を理解させる事例として、日本は中国を、中国は日本を取り上げていた点である。具体的に日本の『新しい社会 地理』では、東アジアや南アジアと並べて中国を取り上げており、中国の『地理』では、東南アジアやインド、ロシアと並べて日本を取り上げていた。

他方、相違点に関しては、二点指摘することができる。第一に、単元全体を貫く問いの有無である。日本の場合、単元全体を貫く問いとして単元冒頭に探究課題「アジア州は、なぜ急速に経済が成長してきたのでしょうか」という問いが設定されている。学習者はこの探究課題を追究し、その問いを解明する活動を通して「アジア」の地域的特色を理解させることが企図されている。他方、中国の場合、単元全体を貫く問いは明示されていない。学習者は、各地域に設定された問いをもとに、日本、東南アジア、インド、ロシア等の地域や国の特色を理解させることが企図されている。このような展開では、事例として取り上げられている地域や国の個別的な特質は理解できてもそれらの地域や国を包括する「アジア」全体を理解することは困難であることが指摘できる。第二に、第一の指摘と関連して「アジア」の地域的特色の捉えさせ方の違いである。日本の場合、探究課題「アジア州は、なぜ急速に経済が成長してきたのでしょうか」という問いを追究していく過程で地域的特色ある事象と他の事象とを関連付けて地域的特色を考察させる動態地誌的な学習の論理に基づき単元が構成されている。具体的には、アジア州の中核的な事象として経済成長に重点を置き、他の事象は関連付けて考察させる展開となっている。他方、中国の場合、例えば「東南アジアは、どのような特色があるか」といった問いを明らかにするために、学習対象とした地域の特色を、位置、気候（環境）、地形、産業、文化（歴史を含む）等の視点（項目）から情報を整理し、考察させる静態地誌的な学習の論理に基づき単元が構成されている。この学習では、各視点（項目）を並列的に扱うため地域間の比較が容易になる。しかし一方で、羅列的、網羅的な指導により知識過剰になり、ともすると学習した地域の地域的特色が捉えにくくなる等の課題が指摘されている（青柳, 2012）。

V. 結論

本研究の目的は、日本と中国の中学校地理教育において、「アジア」がどのように取り上げられ、どのように学習されているのかについて、教育課程（カリキュラム）の基準や教科書を比較・検討することを通して、異同を明らかにすることであった。

本研究の成果は、日本と中国の中学校地理教育における教育課程（カリキュラム）及び準拠版教科書の比較・分析を通して、「アジア」に関する学習内容の共通点と相違点を明らかにしたことである。

今後は、本研究で分析した「アジア」以外の地域がどのように学習されているのかについて、引き続き、検討していくことが課題である。

【注】

- 1) 課程標準とは、中国教育部が基礎教育課程に対する最低の規範と基準（学習目標、学習内容、評価等）を示す大綱的な文書で、日本における学習指導要領にあたるものである。

【引用・参考文献】

- 青柳慎一（2012）：動態地誌的な学習，日本社会科教育学会編『新版 社会科教育事典』ぎょうせい，pp.130-131.
- 郭明（2015）：ESDの視点を取り入れた中国の高校地理教科書の分析—人民教育出版社の必修教科書を中心に—，新地理，63(2)，pp.16-32.
- 赫連茹玉・桑原敏典（2021）：多文化共生の視点から見た中国の中等社会科系教科の特質—中学校地理及び歴史教科書の記述分析を通して—，岡山大学教師教育開発センター紀要，11，pp.133-147.
- 蘇立・山中英生・上月康則（2007）：日本及び中国における環境教育の内容の変遷に関する比較分析—中学校における地理の学習指導要領と教科書記述を通して—，土木学会論文集 G，63，pp.102-111.
- 中華人民共和国教育部（2011）：『義務教育地理課程標準』北京師範大学出版社，pp.7-18.
- 傅嘉琪（2019）：高等学校地理基準に関する日中比較研究，兵庫教育大学地理学研究室研究報告，24，pp.36-45.
- 樊傑主編（2012a）：『地理（七年級上冊）』人民教育出版社・教育部，95p.
- 樊傑主編（2012b）：『地理（七年級下冊）』人民教育出版社・教育部，102p.
- 季碩・池俊介（2015）：中国の地理教育における観光学習，新地理，63(3)，pp.33-45.
- 南春英（2019）：中国の中学校地理教科書における日本に関する記述の変遷，人文地理，71(4)，pp.417-437.
- 文部科学省（2017）：『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』東洋館出版，237p.
- 矢ヶ崎典隆・坂上泰俊・谷口将紀ほか（2021）：『新しい社会 地理』東京書籍，295p.